



Nuit de Noël, 1963  
©Malick Sidibé Courtesy of M+M, Los Angeles



Danse le twist!, 1965  
©Malick Sidibé Courtesy of M+M, Los Angeles



Regardez moi!, 1962  
©Malick Sidibé Courtesy of M+M, Los Angeles

DANCEdanceDANCE

*la vie en danse*

Photography of **MALICK SIDIBÉ**

1960年代、激動のアフリカに生きる若者を  
その情熱まで余すところなく撮影したマリック・シディベ。  
シンプルで直感的な彼の写真を通して、  
ダンスが象徴する変革期のマリが現代に蘇る。

Text: Aya Tashiro (Tokyo) | Edit: Toru Ukon, Hiroshi Kagiyama (Tokyo) | Special Thanks: Britany and Shannon from M+M Gallery | www.m4m.com



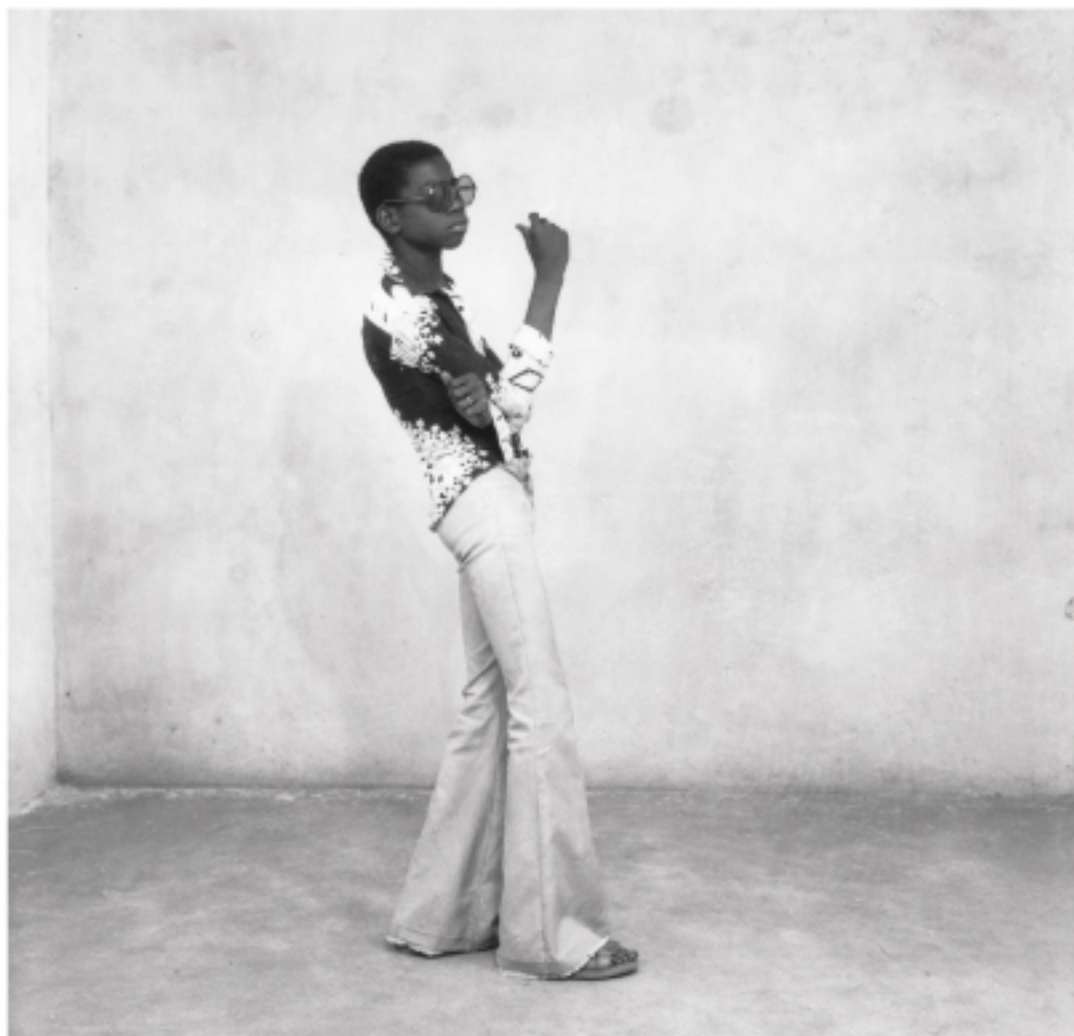
Amis des espagnole, 1968  
©Malick Sidibé Courtesy of M+R, Los Angeles



Ambianceur en Pattes d'Elephant, 1970  
©Malick Sidibé Courtesy of M+R, Los Angeles



Je viens du ciel! Les jeunes sympathiques, 1968  
©Malick Sidibé Courtesy of M+R, Los Angeles



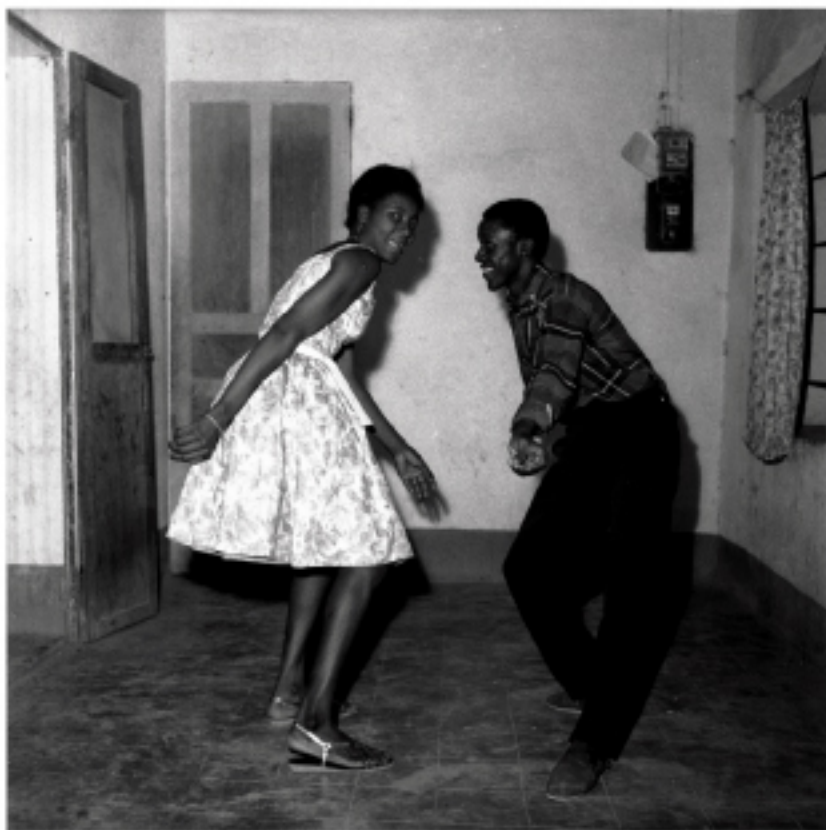
Un Yéyé en Position, 1963  
©Malick Sidibé Courtesy of M+R, Los Angeles



Montrant un Disque, 1972  
©Malick Sidibé Courtesy of M+R, Los Angeles



Danseur Merengue, 1964  
©Malick Sidibé Courtesy of M+R, Los Angeles



Twist, 1963  
©Malick Sidibé. Courtesy of M+B, Los Angeles

**Malick Sidibé** マリックシディベ  
1935年、マリノコに生まれ、写真家、バマコのアーティストとして活躍。ジュエリーメーカーキングを学んだのち、フランス人写真家ジェラール・ドニョールに師事。1960年にフリーとしてキャリアをスタートさせ、1962年にはバマコにスタジオ・マリクを設立。長くアフリカのみでその名が知られていたが、1994年に作品が展覧会で紹介されたことがきっかけで、一躍世界中から関心を浴びるようになる。以後、ハッセルブルド国際写真賞(2003年)、ヴェネツィア・ビエンナーレ栄誉金獅子賞(2007年)など、著名な賞を次々に受賞。アフリカを代表する現代写真家のひとりとして、世界中から注目されている。その作品は世界各国で展示されているが、最近ではLAの「M+B」ギャラリーでコレクション作品を含む大規模な展覧会が開催された。同ギャラリーでは、シディベのプリントも購入可能。

「誰もが自分を美しく見せるために、ダンスをしていました」

「誰もが自分を美しく見せるために、ダンスをしていました。本当の意味でのマリクの革命は、実は音楽に表れていたのではなく、ダンスをするにはできなかったけど、キューバのリズムやビートルズ、ジエームス・ブラウンの曲に合わせてなら、少年少女はお

互いに触れ合ったり抱きしめ合いながら、ダンスをすることができたのです。もちろん彼らの親世代はいい顔をしませんでした。でも、来るべき変化を止める力を持っている者なんていなかったんです」

「写真は、少なくともわたしがいつも使

自分の作品を通して、わたしはいつもそのことを伝えたいと思っているのです」

「写真家は、少なくともわたしがいつも使

「誰もが自分を美しく見せるために、ダンスをしていました」

「誰もが自分を美しく見せるために、ダンスをしていました。本当の意味でのマリクの革命は、実は音楽に表れていたのではなく、ダンスをするにはできなかったけど、キューバのリズムやビートルズ、ジエームス・ブラウンの曲に合わせてなら、少年少女はお

互いに触れ合ったり抱きしめ合いながら、ダンスをすることができたのです。もちろん彼らの親世代はいい顔をしませんでした。でも、来るべき変化を止める力を持っている者なんていなかったんです」

「写真は、少なくともわたしがいつも使

自分の作品を通して、わたしはいつもそのことを伝えたいと思っているのです」

「写真家は、少なくともわたしがいつも使

「誰もが自分を美しく見せるために、ダンスをしていました」

「誰もが自分を美しく見せるために、ダンスをしていました。本当の意味でのマリクの革命は、実は音楽に表れていたのではなく、ダンスをするにはできなかったけど、キューバのリズムやビートルズ、ジエームス・ブラウンの曲に合わせてなら、少年少女はお

互いに触れ合ったり抱きしめ合いながら、ダンスをすることができたのです。もちろん彼らの親世代はいい顔をしませんでした。でも、来るべき変化を止める力を持っている者なんていなかったんです」

「写真は、少なくともわたしがいつも使

自分の作品を通して、わたしはいつもそのことを伝えたいと思っているのです」

「写真家は、少なくともわたしがいつも使



**(CHEMISES)**  
Malick Sidibé and Jerome Solter (Said, 2008)  
シディベはクラブで撮った写真を台紙に貼り、そこに写っている人が好きなものを選んで買えるようスタジオに置いていた。それを一冊の本にまとめたのがこの本。



**(MALICK SIDIBÉ)**  
(Forbidden Zine, 2006)  
90年代までまったくヨーロッパでの知名度がなかったシディベ、際限なく世界を巡った写真家の代表的な作品を集めた、191ページにおよぶ作品集。



**(PHOTOGRAPHS)**  
Mentha Flowers, Gurilla Knaps and Andre Magrin (Stedelijk Museum, 2004)  
2003年のハッセルブルド賞受賞を記念して発行された作品集。シディベに関するエッセイのほか、インタビューも収録された変遷の1冊だ。



Le Photographe et son ami, 1971  
©Malick Sidibé. Courtesy of M+B, Los Angeles

## 「誰もが自分を美しく見せるために、ダンスをしていました」

1960年は、「アフリカの年」と呼ばれている。長きにわたるヨーロッパの宗主国によって植民地支配を余儀なくされていたアフリカの国々の多くが、この年に独立を果たしたからである。写真家マリク・シディベの祖国であるマリ共和国も、1960年9月にフランスから独立している。シディベはこのとき24歳。写真家としてのキャリアをまさにスタートさせた年でもあった。自身が感じていたであろう母国への期待と、当時の若者が放っていたかつてないほどの情熱。被写体と撮影者が持つそうした熱気が匂い立つシディベの作品は、「アフリカの年」から半世紀以上を経た今でも、観る者を圧倒する。特にダンスをする若者たちの姿をとらえた一連の写真は、その躍動感と西洋的なスタイルが、当時のアフリカに満ちていた自由でダイナミックな空気を象徴しているかのようである。

シディベは、マリ(当時フランス領スーダンの首都バマコ)から300キロほど離れた村で生まれた。父親の計らいにより、家族で唯一教育を受けるところになるが、すぐにその芸術的才能が周囲の注目を集めるようになる。シディベが学校の依頼で描いた絵を盗取された政治家はその才能に気づき、彼を首都バマコのアーティストスクールに通わせる手助けをした。ペインティングとジュエリー・メーカーキングを学んで同校を首席で卒業したシディベは、またもや学校からの依頼で、フランス人写真家ジャン・ポール・ギアリエールのスタジオ・シヨップの装飾を手掛けることになる。そこでギアリエールの目に留まり、スタジオで働かないかと誘われ、初めはレジ係として就職。しかし覚えが早いこととセンスがいいこともあり、翌年には写真アシスタントとして